

目次

第1章 身体の状態を知る

1 観察	2
2 バイタルサインとその測定方法	4

第2章 高齢者によく見られる症状とその対応

1 視力障害（老視・老人性白内障・緑内障）	10
2 聴力障害	12
3 めまい	15
4 老人性紫斑	16
5 振戦（ふるえ）	17
6 褥瘡（床ずれ）	18
7 尿失禁	20
8 心臓に関する疾患	22
9 高血圧	24
10 動脈硬化	26

第3章 緊急を要する症状とその対応

1 発熱	28
2 便秘	30
3 痛み（疼痛）	32
4 捻挫・脱臼	34
5 骨折	35
6 出血	38
7 脱水	39
8 やけど	40
9 嘔吐	42
10 呼吸困難	44
11 誤嚥	46
12 一酸化炭素中毒	49
13 食中毒	50
緊急時の対応	52

第4章 介護保険の特定疾病

1 神経疾患① 初老期における認知症	58
2 神経疾患② 脳血管疾患	60
3 神経疾患③ 筋萎縮性側索硬化症（ALS）	62
4 神経疾患④ パーキンソン病関連疾患	64
5 神経疾患⑤ 脊髄小脳変性症	66
6 神経疾患⑥ 多系統萎縮症	67
7 神経疾患⑦ 早老症	68
8 整形疾患① 脊柱管狭窄症	69
9 整形疾患② 変形性関節症	70
10 整形疾患③ 関節リウマチ	72
11 整形疾患④ 後縦靱帯骨化症	74
12 整形疾患⑤ 骨折を伴う骨粗鬆症	76
13 内科疾患① 糖尿病性腎症、糖尿病性網膜症、糖尿病性神経障害	79
14 内科疾患② 慢性閉塞性肺疾患（COPD）	80
15 内科疾患③ 閉塞性動脈硬化症	82
16 内科疾患④ がん末期	83

第5章 覚えておいてほしい疾患

1 脊髄損傷	86
2 重症筋無力症	88
3 脂質異常症（高脂血症）	89
4 気管支喘息	90
5 胃腸疾患	92
6 腎疾患	96
7 糖尿病	98
8 痛風	100
9 甲状腺疾患	101
10 がん（悪性腫瘍）	102
11 前立腺肥大症	104

第6章 感染症

1 MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）	106
2 皮膚感染疾患（疥癬、白癬、伝染性膿痂疹（とびひ））	108
3 肺炎	110

4	結核	113
5	肝炎	114
6	尿路感染症	116
7	敗血症	117
8	腸管出血性大腸菌（O-157）感染症	118
9	インフルエンザ（流行性感冒）	120

第7章 薬の取り扱い

1	薬の管理	122
2	高齢者の服薬管理の注意点	125
3	服薬の介助	126
4	副作用	129

資料編

1	身体の仕組み	134
2	医行為について（厚生労働省通知）	143
●	参考文献	148
●	監修者・執筆者	151

第1章

身体の状態を知る

2 バイタルサインとその測定方法

要点

- 人間が生きている状態を示す徴候をバイタルサインと呼ぶ。
- 健康状態になんらかの変調を認めた時はバイタルサインをはかり、身体状況の確認を行うことが必要である。

1 バイタルサイン

- バイタルサインは、生きていることを表すしるしで生命徴候ともいう。
- 一般に体温および呼吸・脈拍・血圧を指すが、広義には意識レベルや精神状態・皮膚の温度と発汗の状態・排尿・排便・食欲・体重・睡眠・神経反射などを含んでいる。

2 体温

- 体温の測定は、水銀体温計^{※1}にて10分（電子体温計にて3分）前後の検温を行う。
- 一般的には、体の表面近くで比較的真的体温に近いところを検温する。
- 代表的な部位には腋^{えきか}下・口内・直腸があるが、口内温と腋^{えきか}下温は要介護者に苦痛を与えずに測定できる。
- 直腸温が最も体温に近い。

表1 体温の正常値

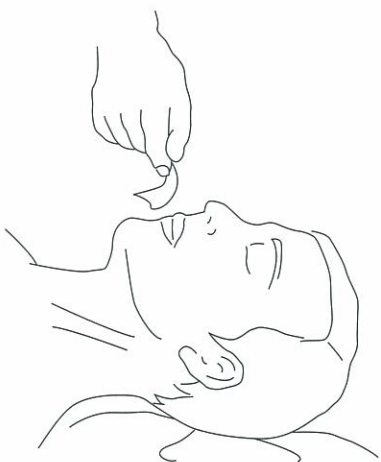
正常体温	成人	36.0～37.0℃（平熱）
	高齢者	36.0℃前後

※体温の値には、男女差・個人差・年齢差があります。高齢者の介護では、普段の様子（体調が良好のときの数値など）を把握し、変化を読み取ることが大切です。

3 呼吸

- 呼吸は肺に酸素を取り入れ炭酸ガスを排出する運動であり、必要に応じてその数や深さ・リズムなどが保たれている。しかし種々の病的状態では、呼吸数・深さ・リズムなどが変化する。
- 呼吸数の成人正常値は、1分間14回～18回である。
- 胸郭や鎖骨の動きなどで衣服の上からも容易に観察できる。また呼吸困難状態にある要介護者や乳児では鼻翼の動きでも測ることができる。これを鼻翼呼吸という。
- 観察しにくい時は、鼻孔の近くに薄紙片やガーゼのぬき糸をかざして動きをみるか、手鏡をおいて曇りをみるとよい。

図1 夜間眠っている要介護者の呼吸の見かた



- ・薄い紙片やガーゼのぬき糸を鼻孔の近くにかざしてみる。
- ・近づけすぎたはいけない。
- ・呼吸筋不完全麻痺の要介護者では特に利用される。

4 脈拍

- 心臓の拍動に応じて、心臓から全身の動脈に送り出される血液の波動が動脈壁へ伝わってきた状態を脈とよぶ。
- 脈は主に橈骨動脈・総頸動脈などで触知できる。
- 脈拍のリズムに異常がある時には、不整脈（脈が正常なリズムで流れないこと）を疑う。
- 脈拍は呼吸と同様に種々の条件によって影響を受けやすいので、脈拍の異常に気づいた際には必ず医師に相談する。なお脈拍の正常値は1分間に60～80程度で、女性の方が男性よりもやや速い。

図2 脈拍のはかり方

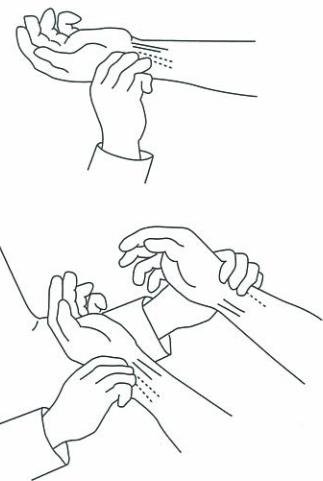
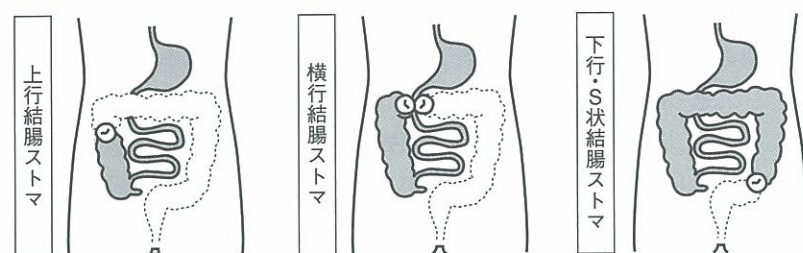


図5 大腸のストマ



直腸に近づくにつれ、便は、水様→粥状→泥状→軟便となり、ガスも発生する。

(2) 経管栄養

口から食事を摂取できない場合、胃や腸へチューブを入れて、流動食や栄養剤を投与する方法である。

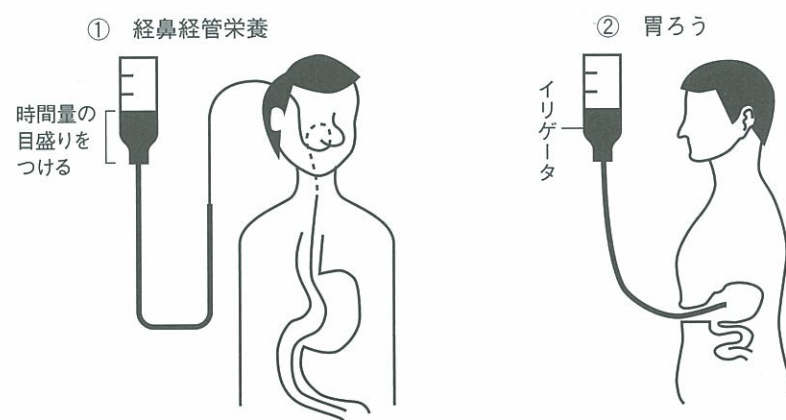
① 経鼻経管栄養・経口経管栄養

鼻や口からチューブを挿入し、必要な栄養を注入する方法。

② 胃ろう・腸ろう

腹部に穴を開けて、直接胃や腸にチューブを通し、必要な栄養を注入する方法。

図6 経管栄養

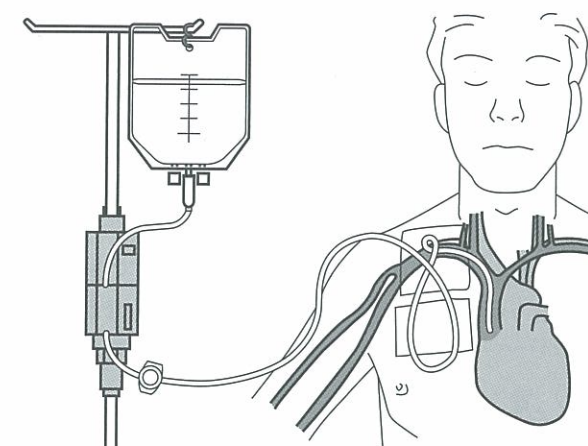


(3) IVH (経中心静脈栄養法)

カテーテルを中心静脈（内頸静脈、鎖骨下静脈、大腿静脈）に挿入し、高カロリーの栄養を投与する方法。

細菌感染に対する注意が必要である。

図7 経中心静脈栄養法



介護のポイント

- ① 経管栄養を行っている場合は、管が抜けていたり詰まったりしていないか、常に注意が必要である。また、体位変換や着替えの際に、管の接続部分が外れないように気をつけることが大切である。
- ② ストマのパウチにたまった排泄物を捨てる行為については、厚生労働省通知（資料編2「医行為について」参照）により、介護職員が行うことが認められた（ただし、医師・看護師の判断により、ストマの状態にトラブル等がなく、専門的な管理を必要としないことが条件である）。